

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、ご利用者様1人ひとりの尊厳を計り、日々の生き生き生活出来る工夫	ホーム開設から10年目を迎え法人の理念とホームの理念を今年度変更した。ホーム理念「私たちは、入所者一人ひとりに笑顔を持って、心温まるサービスを提供します」を新に掲げ、それに連動した行動指針を立てている。利用開始時には本人や家族に説明している。月1回の職員会議で周知徹底を図り、職員の言動に理念に沿わないようなことがみられた場合には施設長や各ユニットリーダーから直接注意をしたり会議で事例検討し改善に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、健康状態を考慮して、出来るだけ参加するよう心がけている。運営推進会議をとおして町会行事の参加、他施設の防災訓練の参加等交流が増えている。	町会に加入し会費を納めている。回覧板も回ってくるので地域の情報も得ている。地域との交流についても積極的に取り組んでおり、町の敬老会にも招かれ利用者がその席で歌の発表もしている。ピアノとソプラノのコラボ、オカリナ、カラオケ、マジックなど多くのボランティアが来訪している。市内の高校の実習生や大学生・地域社協関係者の見学なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	認知症ケアの啓発に努めている。人材育成貢献として、実習生、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者サービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを持ち、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加し開催されている。現況報告や行事報告、苦情報告、次月の予定などホームの運営についてより理解を深めていただくために詳細に説明し意見・助言等をいただいている。地域の出席メンバーもホームの課題に真剣に取り組んでいただいております。他施設での防災訓練の見学や痰の吸引などについて協力やアドバイスをいただいております。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判断困難な時は相談に伺っている。認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の暮らしぶりを具体的に伝え、連携を深めるよう心がけている。	市担当部署や地域包括支援センターとは運営推進会議以外でも利用状況や待機者などについての情報交換をしている。地域密着型サービスに対する市召集の会議にも出席し介護保険制度の改正時や感染対策等の集団指導等を受けている。介護認定の更新時には市の認定調査員が来訪し、家族とともにホームから情報提供している。市から派遣される介護相談員2名が毎月来訪しており利用者とは話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。	毎月何らかの外部研修に職員が出席しており、身体拘束に関する外部研修にも参加し、出席した職員が研修報告を兼ね伝達研修をホーム内で実施し周知している。職員も身体拘束をしないケアについて正しく理解しており実践している。外出傾向の利用者についてはその様子で自宅まで同行し安心していただくように対応している。万が一の離設に備え利用者の写真入り情報カードを作成している。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じ講習会参加者による伝達講習を行い、虐待について正しい知識を学び、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに説明を行っているが、実際に必要とされる利用者が居ないため、理解は足りない。責任者は研修に参加し知識を得るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って説明している。特に利用料金や起こりえるリスク、重度化の看取りについて、当事業所の考え、医療体制について説明して同意を得ている。当事業所のケアに関する取組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フロアに備えている。又来所時家族等の意見を聞き、苦情を受けた時は、発生原因を探り課題を検討して改善に向けている。	数名の方を除き、利用者は自分の思いや意見を表すことが出来る。利用者のつぶやきや何か気づいたことなどがあれば「みんなのノート」に記入し、職員会議やユニット会議で検討後、本人の意向に沿うようにしている。1ヶ月に1回以上は家族の来訪がありその際に意見や要望を聞き入れている。苦情の内容についても運営推進会議で公開し透明性を図っている。敬老会を兼ねて別会場で家族会が開催されており、食事会と話し合いをしている。「サンライズ里山辺通信」も年3～4回発行され家族との意思疎通に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ月一回行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞きだしたりしている。	全体職員会議が月1回開かれ、ユニット会議も同じく月1回開催されている。会議は双方向で職員の意思疎通の良い機会となっている。全体会議に続けて勉強会が開かれることもあり、ユニット会議ではケアカンファレンスも行なわれている。運営者である代表者と職員との個人面談も年1回行なわれ処遇も含め業務上の課題などについて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も月一回の責任者会議、ミーティングに参加して、事業所の状態、職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、事業者内研修にはなるべく多くの職員が受講出来るようようにしている。それらの研修報告は毎月の全体会議で、伝達講習をしている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の事業所と交流を持ち、バイオリンコンサート、研修会、夏祭り行事に案内を頂き参加させて頂いている。他施設の防災訓練にも参加させて頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、ご本人様、ご家族様等の思いや生活状況を把握し、入居時には安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームではどのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。相談する家族の立場に立って、話をしっかり聴きながら、受け止めながら関係を築き理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前の事前相談などの機会には、必ずご本人にとってグループホームでの生活及びケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという共有の意識の中で、人として先輩を敬い、生活の中で教えて頂く事の大切さ、またご本人様は教えることで生活を楽しみ、ご自分を再確認されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様を自分の家族と同じ用いていることをご家族に伝え、此処での生活をより良いものにするよう、話しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一番は家族と共に過ごせる時間を作って頂く為に外泊のセッティングや、友人・知人が気楽に訪れて頂けるように心がけている。又、馴染みの場所などは、外出などの折に、なるべく訪れるようにしている。	馴染みの人との関係を継続できるように職員が支援している。利用前からの仕事仲間の来訪を受ける利用者がいる。お盆や正月に一時帰宅や自宅に泊まる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が自然と助け合い、喜び、悲しみを分かち合えるような声掛けや、たまには利用者様の間に入り、繋ぎの役目をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの関りの中で話しを聞いたり、又、あまり話たがらない利用者様には、ご家族の方に聞いたりして把握しようと努めている。	数名の方を除き、大半の利用者が自分の意向等を出すことが出来る。献立や外出・ドライブ先の希望を聞き、職員体制が厚い時間帯にできるだけ沿うようにしている。言葉での意思表示が難しい利用者については声掛けをし表情や仕草で把握している。職員は利用者一人ひとりに合わせ、時間をかけ、丁寧に接している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中でご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。又、入所後も日々の話の中からヒントを得て、生かせる介護をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり違う生活リズムを一緒に生活する中で感じ取り把握している。そしてユニット全体の中でどう調和していくか常に考えながら行動している。生活を共にするという中で心身状態や、出来ること・できない事を察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス・アセスメントをへてケアプランの作成・変更を行っている。3ヶ月に1度ご家族・支援者には密に連絡し、その意見を聞き参考にしている。	職員が利用者1~2名の居室を担当し居室や衣類の整理整頓をしているが介護計画の作成時にも利用者の情報をユニット会議や午後の記録の時間にリーダーやケアマネジャー、施設長に伝えている。毎日記録している「健康管理&ケアプラン実施記録表」で実施状況や計画に対しての進捗状況を確認し毎月の「介護計画モニタリング表」へとつなげている。家族からも年2~3回要望を聞いている。3ヶ月に一度見直しをかけており急変した時には臨機応変に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のミーティングの中で、記録、情報の共有を行い細やかな。修正を行っている。又、出社時には、記録を読み情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じ、通院支援等の対応を行っている。各ユニットの職員が、その時々協力し対応している。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々による、踊り、マジックショーカラオケ、唄、ピアノ等のコンサートに来て頂き、地域の人達に支えられている。又町会にも支援頂き、敬老会には唄の発表をして地域の人達と交わりを持つことが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、利用前からの掛かり付け医の医療を受けられる様、ご家族と協力して通院介助を行っている。体調不良の時は訪問看護に相談後家族に連絡をとり、掛かり付け医等に受診している。	3分の2以上の利用者がホーム近くの内科医がかかりつけ医としている。その医師により月1回訪問診療が行なわれている。緊急時には往診もしていただけるようになっている。協力医療機関の医師とも連携ができています。週1回、訪問看護師が来訪し利用者の健康観察や相談に応じており、24時間連絡が取れるようになっている。必要により歯科医の往診が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携をとり、週1回の定期訪問の他24時間体制をとり、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられるよう支援して頂いている。又職員と看護師が緊密に相談できる関係は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した時は、面会を重ね、情報の交換に努め、ご家族と連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全体でカンファレンスを行い、気持ち、ケアの統一を計り行っている。又、家族会で終末期の話し合いを行った。出来ること出来ない事を明確にし話し合いを進めた。ご本人様、ご家族の思いを大切にこれからも話合って行きたい。医療、環境、職員の生死感などの問題もこれからの課題です。	3年前に1名の方の看取りを行なった。その際には医師、訪問看護師、職員が「利用者をもっとかしたい」という思いで協力しながら数日間のお世話をした。重度化し医療機関に入院する直前までホームで過ごした方もいる。終末期のあり方に関する指針なども作成されており、痰の吸引などの課題はあるものの利用者で終末期を当ホームで希望されている方もおり、前向きに取り組みたいという意向がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急時対応をしている。又講習会等に参加して初期対応の訓練など行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回～4回の火災訓練を行い、職員の危機意識を高め、実際の避難方法を検討している。町会との防災協定の締結を期に訓練参加を予定している。	志願であった地域との防災協定が1年前に締結された。通報連絡、避難・誘導、消火の総合訓練を含め、災害訓練を年3～4回実施し消防署の指導も受け車椅子の利用者も参加している。「防災の日」に防火管理者と両ユニットのリーダーがすぐ近くの特別養護老人ホームの防災訓練の見学に出掛けホームの防災体制の見直しもしている。3階建てのため1階から3階に通じる非常階段には防火扉を設置し防火区画を形成するようになっている。居室の入口には利用者が居室内に居るか否かの表示のカードをつけ方が一に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり、個性が違うように声掛けの仕方 や対応も違い、誇りやプライバシーが損ね ることがないように、ミーティングの折、話し合 い、確認している。	ホームの運営方針にも「尊厳のある豊かな老後を送 れることを目指す」とあり、自由、気ままに過ごせるよ うにしている。利用者自らが一日の時間を組み立てられ るように自主性を重んじ、好きなテレビ番組などがあ れば夜遅くまで見ていただいている。職員の言葉かけ も穏やかで、年長者や目上の方を敬う姿勢が随所に 見られた。排泄等の失敗時にもさりげなく声がけし自 室等へご案内しており、気づかいと心づかいが感じら れた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	出来る限り、場面に応じて選択の幅を広げ られるよう、声掛けや気持ちを考えて行って いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりの 体調や気持ちに配慮しながら、その時の希 望を取り入れ、個々の流れは少し違って それぞれが上手く溶け合うような時間の流 れを作れるよう考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	朝の身だしなみ、化粧は本人の好みで支援 している。月一度ボランティアさんに髪 のカットをおねがしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどは利用者様にも手 伝って頂いている。献立は利用者様の希望 を聞き、取り入れ、食事を楽しく自分のもの として頂いている。	全介助の方も数名おり、職員の勤務状況に合わせ時 間差で対応することもある。常食の方が大半でゆっく りと時間をかけながら職員と一緒に食べている。毎月1 日には赤飯、15日には山菜おこわなど利用者の好み のものを定例化しており、旬の食材を取り入れたメ ニューを職員が考え、食前に利用者説明している。 利用者も食材のカット、モヤシのヒゲとり、サトイモの 皮むきなど出来る範囲でお手伝いしている。配膳や 片づけ、食器洗いなども出来る方をお願いしている。 食事会形式のホームの敬老会には家族も出席し、す ぐ近くのホテルで毎年行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	水分摂取には十分注意している。献立、栄 養バランス、彩りを考え、その人に合った食 事形態を考え時間をかけて食事して頂いて いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。 又、寝る時には、入れ歯洗浄剤に浸け 義歯の清潔に努めている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を把握し、促し誘導をして、トイレで排泄出来支援している。そのことにより脱オムツに移行出来るよう取り組んでいる。	自立されている利用者は3分の1ほどでその他の方は何らかの形で介助を必要としている。トイレも各ユニットに6ヶ所あり行きたい時に行くことができ、職員も時間を見計らって誘導している。夜間オムツを使用する方は若干名で、布パンツやリハビリパンツにパットを使用する方など一人ひとりに合わせ常に見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事など繊維質の多い野菜など多く摂るように努めている。又足上げ運動や散歩など軽く身体を動かす運動を毎日取り入れている。特に水分の摂取量に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴を実施している。その他、汗を掻いたりした時はシャワー浴など臨機応変に対応している。又入浴拒否のある人には、安心感を持てるよう歌を唄ったり、思い出話しをして気を紛らわしてもらっている。	入浴の時間帯は午後のお茶の前と夕食後に設定し利用者の希望に応じて順番を調整し週2回以上は入浴している。リフト浴等はないが、必要な場合は職員2人で介助している。運営推進会議の委員のアドバイスにより入浴用福祉用具を使い介助の負担を減らすようにしている。菖蒲湯、ゆず湯、各種入浴剤などを使い楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に配慮し、生活のリズムを整えるように努めている。眠剤を服用している方については、かかり付け医に、眠剤状況を不逐一報告し指示を仰いでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、その都度本人に手渡し服用を確認している。状態の変化時には、訪問看護・協力医療機関との連携を図れている。又、服薬管理表を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、自然と役割みたいなものが出来、体調など見ながら一緒に行い、終えるという充実感を感じてもらえと考えます。又、その日の利用者の気分に合わせて、手伝い、レクリエーションなど利用者中心で話し合い、決めてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて季節感を感じられるよう、花見、紅葉、初詣、祭りなど外出を支援している。(行事として)。又、本人の希望に応じて散歩や買い物、ドライブなど、ちょっとした外出の支援も行っている。	外出時に車椅子を必要とする方が4分の1ほどいるが天気の良い日には昼食前にホームの周辺を散歩している。少人数での買い物にも職員と出掛けている。年間の行事予定が組まれており、桜や菜の花、ボタンの見物、初詣などに分乗し出掛けている。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には所持して頂き、買い物などの支払いもして頂いている。(見守り)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望により支援している。帰宅願望が強い時家へ電話して安否が確認出来たことにより落ち着いたこともある。暑中見舞い等を書き、近況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音や季節の香り、音、目、で楽しむことなどを、リビングや日常の中に取り入れる工夫をしている。昨年は季節を貼り絵で表し町会の文化祭に出品したりして、季節感を味わった。	共有空間はエアコンと床暖房で心地良く、太い丸柱を真ん中に食堂やリビング、和室などが配置されている。大きな画面のテレビの前には2台の長いソファが置かれ、利用者がくつろげる居場所となっている。歌好きな利用者が多くホームの歌や四季の歌、安曇節などの歌詞が掲げられている。外出時やイベント時のスナップ写真も掲示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファやを設け、自由に使えるスペースを確保していて、それぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との相談により、使い慣れた物、写真など、馴染みのものを持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室の入口には緊急時の所在を知らせる「入」・「出」の文字が両面に記されたカードを表札の横に吊り下げている。室内にはベッドやクローゼットが備え付けられ、筆筒やテレビ、イスなど使い慣れたものが待ち込まれている。家族の写真や誕生日カード、賞状なども壁に掲げられていた。クローゼットの収納スペースも広く整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり皆違うので、その人の心身の状態に合わせて工夫するよう心がけている。又、混乱が繰り返し続くような時には、その原因を職員一同で話し合い、なるべく取り除き、環境の整備に努めている。		